市議会報告

千葉市の国家戦略特区指定とドローン活用を含めた市議会報告

千葉市議会議員（千葉市美浜区選出）**田畑　直子**

■平成28年度予算の特徴
地域活性化に向けて、未来への投資

本年２月に開会された千葉市議会の平成28年第１回定例会では、平成28年度予算議案として、一般会計4,004億円（前年度比2.6%増）、特別会計4,368億2,000万円（前年度比6.2%減）、合計8,372億2,000万円（前年度比2.2%減）の過去最大額が提案されました。

市議会では歳入の確保や歳出の削減のため、市税徴収の徹底や、事務事業の見直しなどに努めていることや、財政健全化に向けて、市債残高や債務負担行為支出予定額などの主要債務総額が減少したことを評価し、議案を可決しました。

今年度の予算では、市民生活における喫緊の課題を解消するため、高齢化への対応として介護予防・認知症対策の拡充や、女性の社会進出に伴う保育所や学童保育の定員拡充など、福祉施策の充実が図られました。さらに、人口減少社会において都市間競争に勝ち抜くための地域活性化策として、東京オリンピック・パラリンピックの開催準備事業や、都市アイデンティティ確立のためのプロモーション事業、国家戦略特区に係る事業計画の策定（1,300万円）等の予算を計上したことが特徴的でした。

■幕張新都心における国家戦略特区指定

その中で、幕張新都心が国家戦略特区に指定されたことに注目が集まっています。幕張新都心とは、幕張メッセやオフィスビル、ホテル・ショッピング施設、学校・教育機関、集合住宅・海浜公園などの大規模施設を有した、就業者約57,000人、居住者約25,000人、就学者約11,000人、年間来街者約4,820万人が活動する、『「職・住・学・遊」が融合した未来型の国際都市』をコンセプトとする千葉市三大都心の一つです。2020年東京オリンピック・パラリンピックは、幕張メッセで７種目の競技が開催されるほか、県企業庁の売却した土地では、住宅地区としての大規模な開発（総供給戸数約4,500戸を予定）が進むなど、今後の発展が期待されています。

■国家戦略特区の提案

千葉市が国家戦略特区に提案した６事業の中で最も期待されているのが､無人飛行機（ドローン）による宅配サービスの実施です。物品を積んだドローンが東京湾臨海部の物流倉庫（アマゾン、楽天、佐川急便等と協力）から、海上や河川の上空を飛行して幕張新都心内の集積所に着陸し、さらにそこから住宅地区の高層マンション各戸へ宅配します。４月11日には、千葉市のほか、内閣府や市内のドローンを研究するベンチャー企業も参加し、幕張新都心において、ドローンによる物資輸送のデモンストレーションが行われました。

医薬品の宅配も検討されており、ＴＶ電話等を通じ、薬剤師による服薬指導を実施し、医薬品のネット販売を可能とする規制緩和も行います。さらに、ドローンを活用して不審者・侵入者に対するセキュリティーサービスも実施するとのことです。ドローンは、日本において、まだ十分な理解と利用の普及には至っていない新しい技術ですが、千葉市では、４月に専門展示会として国際ドローン展が開催されたほか、消防局では、総務省から無償貸与されたドローンによって、災害時に現場の撮影や有毒ガスの検知等を行うための訓練が始まっています。今後、ドローンの新たな活用や技術の進化が期待され、成長する産業であるといえます。

二つ目の提案は、ロボットタクシーの無人運行と、パーソナルモビリティ（小型電動コンセプトカー・電動車いす・移動支援ロボットセグウェイ等）のシェアリングサービスの実証実験です。ロボットタクシーの無人運行では、国際免許証を持たない訪日外国人の乗車・運行も検討するとのことです。

三つ目の提案は、既存マンションを活用した民泊です。幕張新都心には６つのホテルがあり、年間約130万人が宿泊しています。今後､オリンピックの開催等により、約1,000室の宿泊施設の不足が見込まれることから、マンションの一部を宿泊施設として利用できるようにします。東京都大田区や大阪府では、適切に民泊を行うため、すでに条例制定に取り組んでいます。千葉市においても、地域住民の住環境を守りながら、効果的に民泊を運用できるよう、議会側から提言していかなければなりません。

四つ目の提案は、幕張メッセで開催されるイベントなどと連携し、利便性・魅力向上につながるよう、駅前広場や道路空間に多言語看板・ベン

ドローンによる物資輸送の実演（破線の円内がドローン）

チ・オープンカフェを設置することです。これは、2012年３月公開の「幕張新都心の持つ魅力を高めるための県市共同調査」の中でも効果的な取り組みとして提言されており、観光客の回遊性を高め、滞在時間を長くすることで、経済効果につなげるようとするものです。

さらに、追加提案として、外国人創業者における在留資格の基準緩和と、地域限定保育士試験の実施の二事業が提案されました。

私は、地域限定保育士試験の実施に注目しています。

千葉市は急速に増加する保育ニーズに対応するため、保育所の定員拡充に努め、平成26、27年度は政令指定都市初の２年連続保育所待機児童ゼロを達成しました。今年度は、11名の待機児童が出ましたが、その要因の一つとして、保育士の不足により、受入れ人数を減少せざるを得なかった施設の存在が挙げられています。首都圏では、保育士不足が深刻となっており、自治体では、就職していないいわゆる潜在保育士の研修制度や就職あっせんを積極的に行っていますが、十分な確保には至っていません。千葉市では、平成27年度から保育所ニーズがピークになると予測される平成31年までに、新たに約600人の保育士が必要になると見込んでいます。この地域限定保育士試験を年二回実施することにより、人材を確保することで、高い保育の質を保ちながら、量の拡大が可能となり、さらには市内に在住している女性の社会進出促進につながることが期待されます。全国的にも保育士試験を年二回実施する県が増加しているなど、取り組みが進んでいますが、首都圏における人材確保の厳しさは今後も続くことが予想されることから、千葉市独自の人材確保を促進していきたいと考えます。

これらの特区の実施は、国内外観光客にアピールするためにも、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を踏まえ、検討していくとのことです。

■関連事業を合わせて展開し、更なる地域活性化・魅力向上を目指す

千葉市ではほかにも幕張新都心に関わる施策を展開しており、相乗効果が期待されます。

・グローバルＭＩＣＥ強化都市にも選定

千葉市では国際会議開催補助金制度を実施し

ており、誘致の実績を伸ばしています。更に昨年、千葉県とともにグローバルMICE強化都市に選ばれ、MICE誘致におけるアドバイザー派遣等が受けられることになりました。

- **市内企業立地促進事業補助制度の拡充**

今までも企業立地を促進するため、補助制度を充実させてきましたが、今年度は補助対象業種にドローン関連産業・MICE関連産業を対象業種に追加するほか、補助要件の緩和や補助内容の拡充を行うこととしました。

- **「海辺のグランドデザイン」の策定**

幕張新都心に隣接する日本一の長さ（4.3km）の人工海浜を生かすため、「海辺のグランドデザイン」が策定されました。グランドデザインでは、既存施設の活性化や民間企業との協働が掲げられており、今後、観光資源・市民の憩いの場としての魅力が向上し、幕張新都心とともに千葉市の顔となることが期待されます。

■市として考える目的と効果

千葉市に国家戦略特区の目的とその効果について聞いたところ、

- 先端技術を集約した取り組みや、外国人や女性などの人材の多様化や裾野の拡大に加え、多様な価値観などを尊重する取り組みであり、日本の産業競争力の強化などに大きく貢献する。
- 世界に向けて日本の先端技術を活用した未来都市をアピールする効果は極めて高い。
- オリンピックレガシーの創出や国際競争力の強化とともに、これら近未来技術を活用した取組みにより、すべての人がストレスフリーな生活を享受できる「ユニバーサル未来社会」の実現に資するものである。

との見解で、東京オリンピック・パラリンピック開催とともに、特区指定という大きな機会を生かさなければならないという意気込みを感じました。

■議会として、どの評価していくか？

議会として、このような新たな挑戦は、地方都市を活性化させる起爆剤として、期待するものの、市民生活を守る立場として、事業が円滑に進み、成果が出るよう検証していかなければなりません。私としては、

- 人口減少社会における地方自治体の生き残りをかけ、都市ブランドの確立と価値向上につながる先進的な取り組みは重要。実績をあげ、事業が継続し、定着するよう努めること。
- 既存の住民・団体・企業に対し、ドローンの安全性やプライバシー保護の確保等、十分な理解を得られるよう努め、新しい街づくりを共に行い、地域全体で効果を受益できるよう工夫すること。
- 幕張新都心の魅力・認知度向上による経済効果を千葉駅周辺・蘇我副都心をはじめとした市域全域に波及するよう取り組むこと。
- 市民生活に直結する福祉・子育て・教育等の予算の確保を最優先とし、投資的な部分については、事業内容を精査し、費用対効果を考え、適切な予算投入をすること。など長期的な視点を持ち、評価していきたいと考えます。

今後も、幕張新都心の発展が千葉市の活性化に大きく寄与するものとなり、千葉市が県内自治体をけん引し、将来を担う世代にとって希望の持てる都市となるよう、活動していきます。

田畑　直子　プロフィール

東京女子大学出身
2011年　千葉市議会議員当選
現　在　市議会議員２期目（現職）